

電子の力で健康パワーアップ

電子と医学

Vol.473
2月号

発行所：電子と医学社
〒110-0001 東京都台東区谷中7-5-25
代表電話：03-3821-2217
ファクシミリ：03-3821-9553

また新たに超短波の有効性が 実証された！

日本免疫学会(平成17年12月13日・パシフィコ横浜)
新潟大学 安保徹教授研究室が発表！

「免疫革命」などの著者として有名で、今医療分野においても画期的とも言える提言を繰り返している新潟大学安保徹教授。その研究室で伊藤超短波製の超短波治療器を使って、「ストレスに対する超短波の有効性」について研究が行われている。

昨年12月、その研究内容の一部が日本免疫学会で発表された。その一端を報告する。

1. 好中球顆粒球の一種の増多の抑制

好中球は、白血球の中の顆粒球の一種で比率は40〜60%。心筋梗塞や脳出血患者はこの割合が高く、抗がん剤などの薬剤の副作用では減少する。

常に適正な量であることが、免疫力を維持させる要件となる。

◎方法

小型マウスに24時間拘束ストレスを与えた後、超短波を照射した群と照射しなかった群を比較。

超短波・出力10W・1日3回・1回10分 期間3日間
◎結果

末梢血の好中球(Mac-1⁺Gr-1⁺細胞)の増減を比較(図1参照)
正常マウス群(コントロール)と比較して

①ストレスマウス群は著しく増加
②ストレス+超短波マウス群は通常レベルに回復

2. 体温の経時的变化

最近「冷え」の問題がクローズアップされ、深部体温の低下が様々な病気を誘発する原因の一つであることが知られてきている。

以前から超短波は体内深部に作用し温熱効果を発揮すると言われてきたが、今回、深部体温を経時的に測定することによりその実態を解明した。

◎方法

前記①の24時間拘束ストレスを与えた後、超短波を照射した群と照射しなかった群に、6時間拘束ストレスを与えた後、超短波を照射した群と照射しなかった群を加え、正常マウス(コントロール)を含めて5群のマウスを測定した。
超短波・出力10W・10分

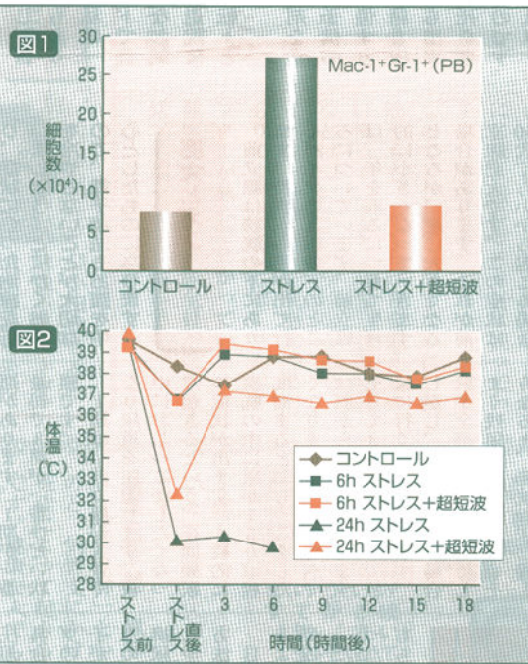
◎結果

ストレス前から18時間後までの直腸体温を測定(図2参照)

①ストレス前は5群とも約39.5度
②24時間ストレス群がストレス直後から著しく体温が低下したが、24時間ストレス+超短波群は体温の低下が緩和された。

①ストレスに左右される好中球数を正常域まで早期に回復させる
②低下した深部体温を速やかに回復させる

ことが、科学的に解明された。皮膚温を過度に加熱することなく効果的に深部治療を行え、温熱作用により血管を拡張させ血流量・血行を増大し新陳代謝を促進させ



- 2月号の紙面
- ①また新たに超短波の有効性が実証された!
 - ②〜③(有)ふじしげ 21世紀健康の会を開催
 - ②健康24時
 - ③ヘルシーレシピ
 - ③電子治療Q&A
 - ④伊藤超短波(株)の歴史を探る②
 - ふれあいタウン

「いつまでも愛される情報誌を目指して」

—電子と医学 創刊40年—

1月1日は今年創業90年

そして、「電子と医学」は昭和41年(1966年)の創刊以来今年で40年を迎えました。

これからも、読者一人一人の健康づくりのお手伝いをするために、最新の情報をお伝えしていきます。末永いご愛読をお願いいたします。

お問い合わせは